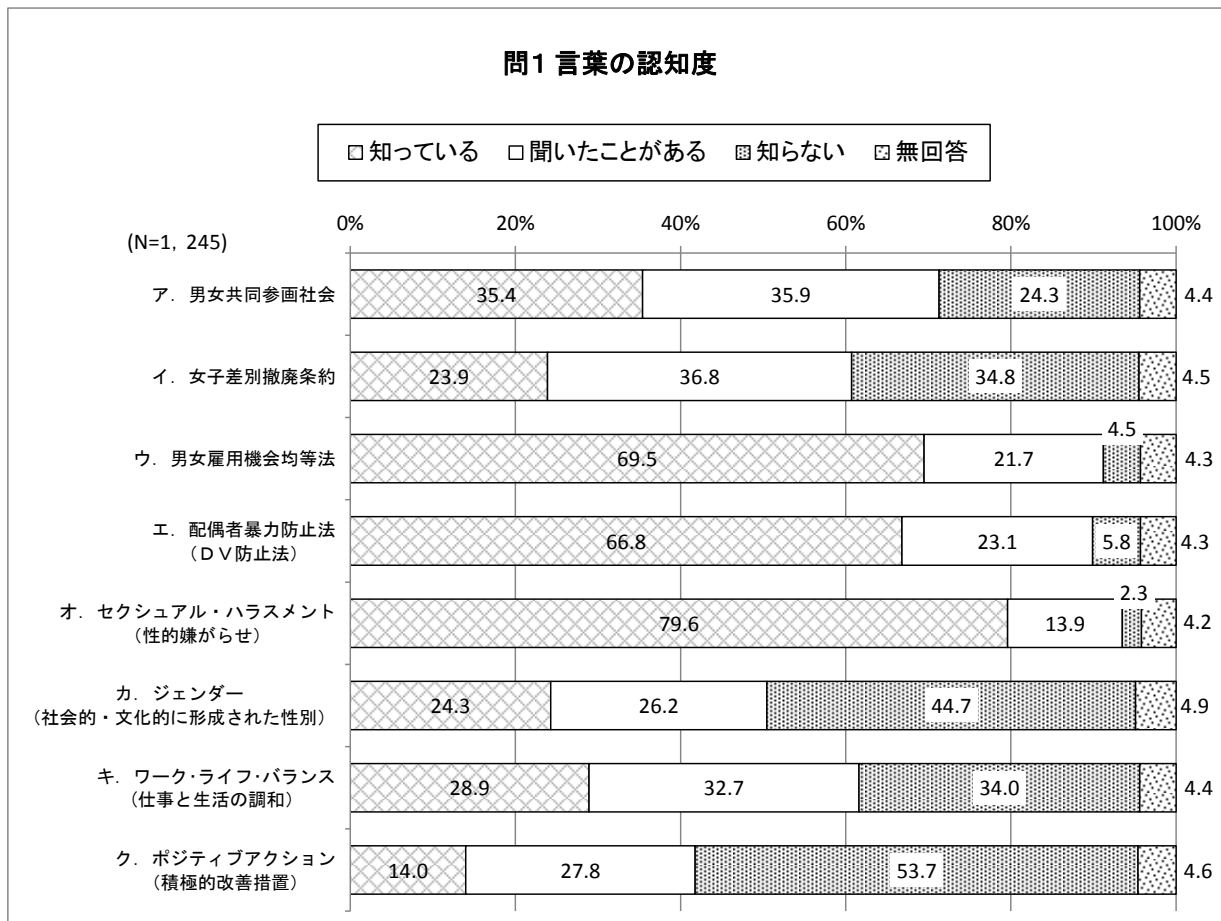


4 調査結果

(1) 男女共同参画に関する意識について

問1 次のア～クという言葉を知っていますか。あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。(単数回答)

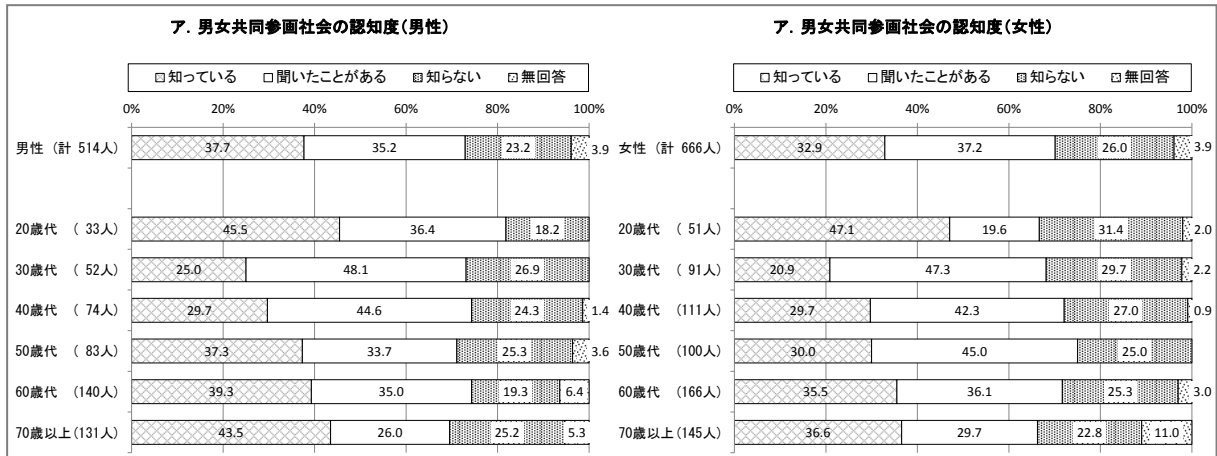
図8 言葉の認知度



「言葉の認知度」については、全般的な特徴として第一に、「ポジティブアクション」、「ジェンダー」、「ワーク・ライフ・バランス」というカタカナ言葉は認知されにくい結果となっている。第二に、「男女雇用機会均等法」「配偶者暴力防止法 (DV防止法)」など法律となっている言葉の認知度が高い。制度として、実際の生活にも影響しているためと考えられる。

ア. 男女共同参画社会

図 8-ア

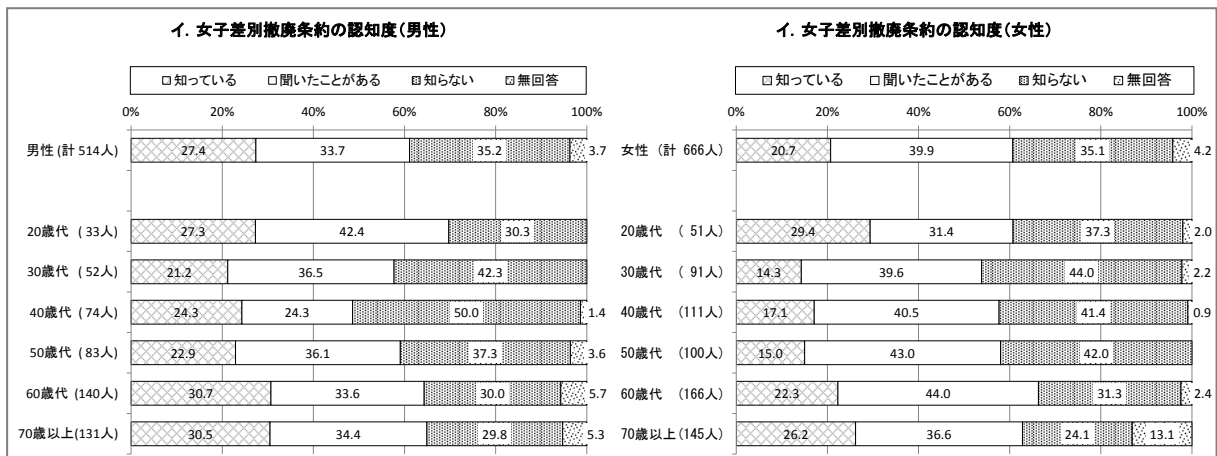


【図 8】「男女共同参画社会」については、「知っている」35.4% (23.7%)、「聞いたことがある」35.9% (40.2%)、「知らない」24.3 (32.7%) で前回の調査の結果より認知度は上昇し、「知っている」の割合が3分の1を占めている。(カッコ内の数字は前回の調査結果)。

【図 8-ア】年代別では、男女とも 30・40 歳代を除き、「知っている」が 30%を超えている。平成 24 年度内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」(以下、「内閣府世論調査」と称する)では、「男女共同参画社会に関する用語の周知度」について、「見たり聞いたりしたことがある」との回答を集計しており、「男女共同参画社会」については 63.7%であり、全国平均より認知度が高いといえる。

イ. 女子差別撤廃条約

図 8-イ

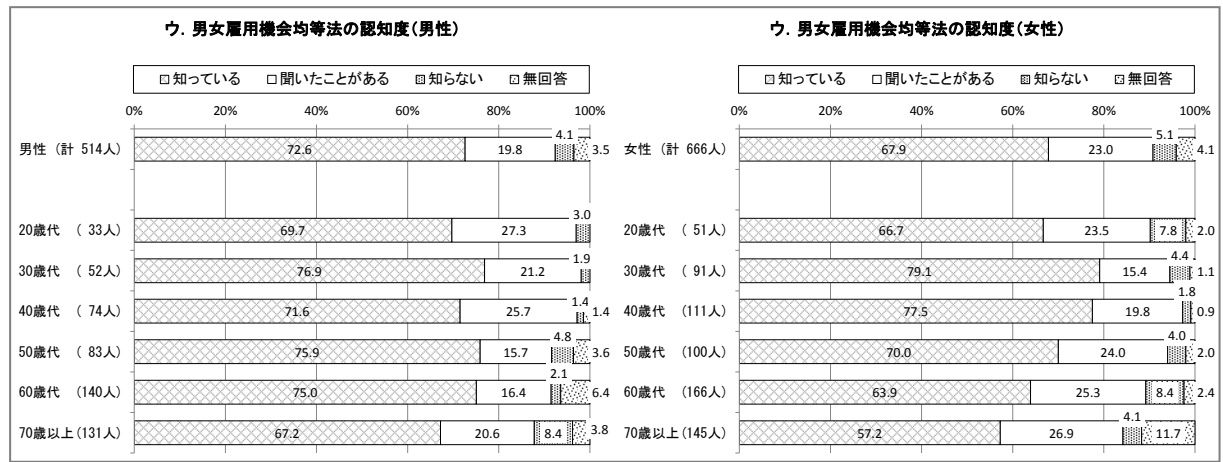


【図 8】「女子差別撤廃条約」については、「知っている」が 23.9% (15.1%) と低く、「知らない」が 34.8% (39.2%) である。前回の調査よりも認知度は上昇している。

【図 8-イ】年代別では男女 20 歳代、男性の 60 歳代、70 歳代以上では男女とも約 3 割が知っている。一方、40 歳代の男性は半数が「知らない」となっている。

ウ. 男女雇用機会均等法

図 8-ウ

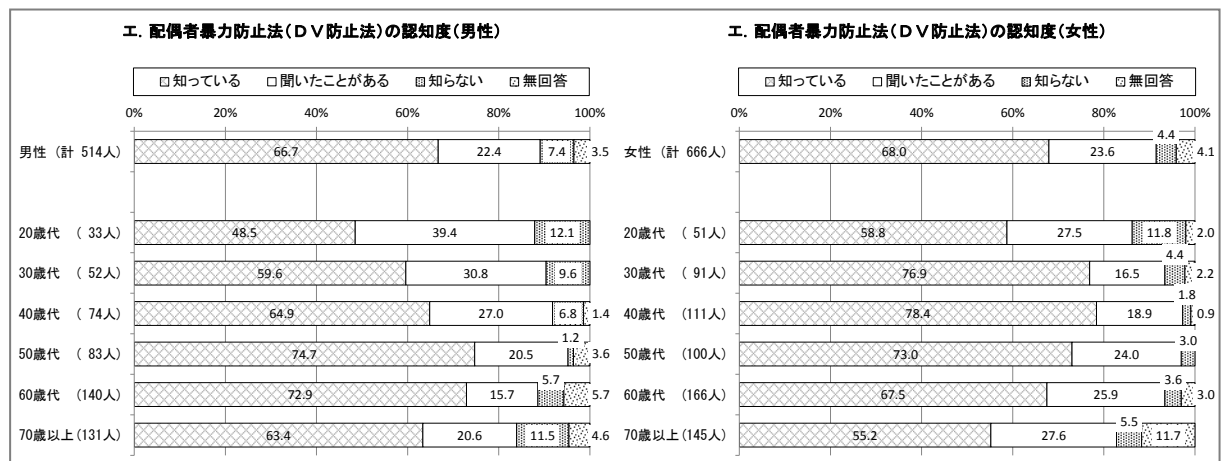


【図 8】「男女雇用機会均等法」については、「知っている」が 69.5% (53.8%)、「聞いたことがある」21.7% (37.7%) であり、ほぼ定着した言葉といえる。前回の調査と比べ大きく上昇している。

【図 8-ウ】性別、年代別でも、「知らない」との回答は 10.0%未満であり、性別を問わず各年代に認知された言葉である。なお、内閣府世論調査「見たり聞いたりしたことがある」との回答 79.6%よりも認知度が高いといえる。

エ. 配偶者暴力防止法 (DV 防止法)

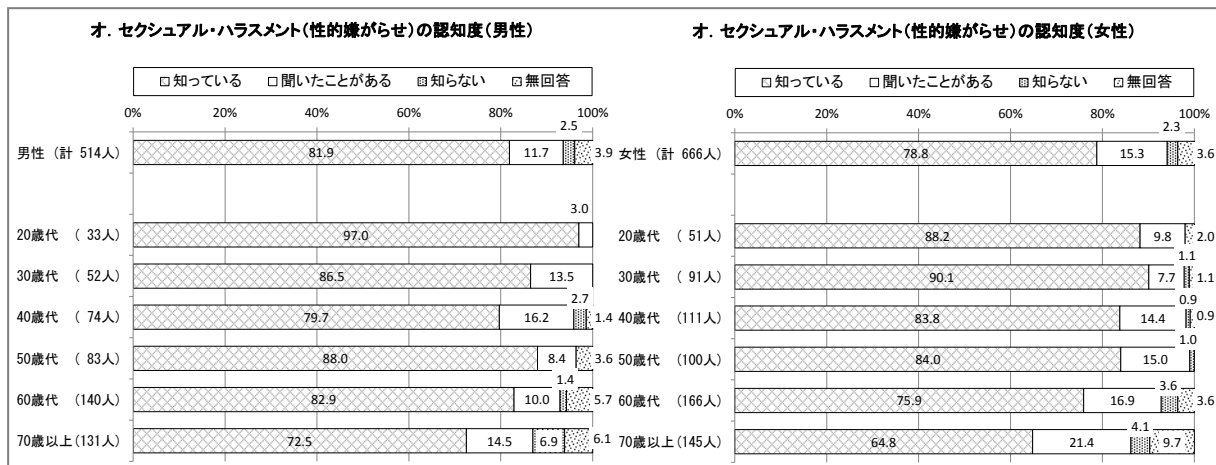
図 8-エ



【図 8】「配偶者暴力防止法 (DV 防止法)」については、「知っている」が 66.8% (47.5%)、「聞いたことがある」が 23.1% (41.1%) と合わせて 89.9% (88.6%) と高い割合を占める。内閣府世論調査の「見たり聞いたりしたことがある」との回答 81.7%よりも認知度は高い。

オ. セクシュアル・ハラスメント

図8-オ

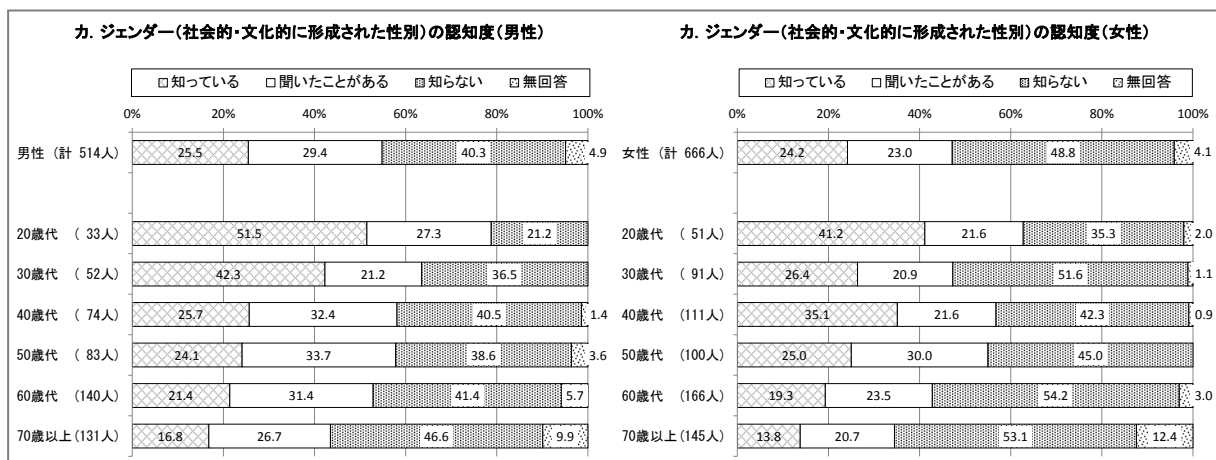


【図8】「セクシュアル・ハラスメント」については、調査対象の中では最も認知度が高い言葉となっている。

【図8-オ】性別、年代別に見ると男性では、70歳以上を除き、「知っている」が4分の3以上を占める。女性の場合は、「知っている」との回答の割合は年代が高くなるほど低下する。

カ. ジェンダー

図8-カ

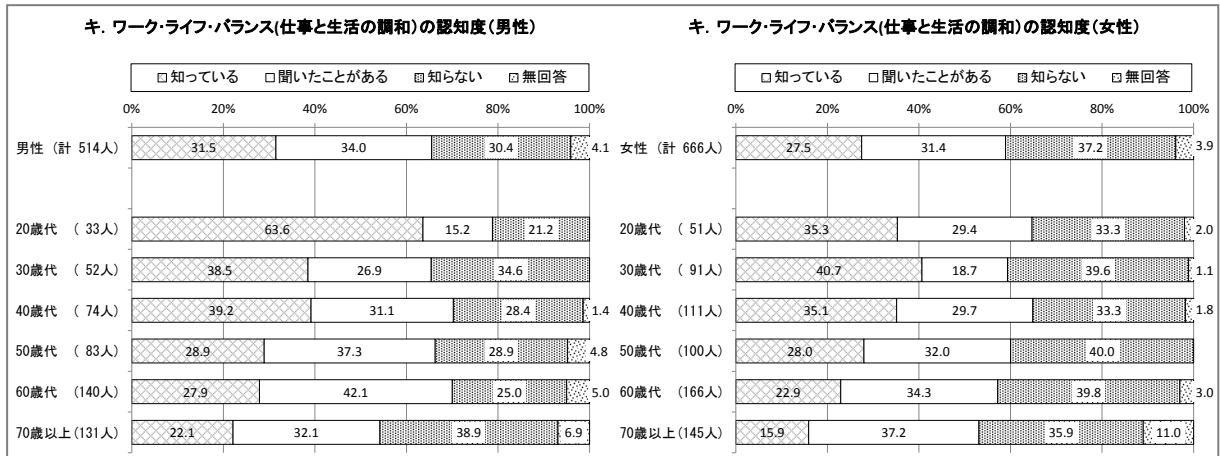


【図8】「ジェンダー」については、認知度が低く、「知っている」は24.3% (13.2%)、「聞いたことがある」との回答は26.2% (20.4%)である。内閣府世論調査「見たり聞いたりしたことがある」との回答30.9%より認知度が高いといえる。前回の調査では、「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計は33.6%であり、認知度は上昇している。

【図8-カ】性別、年代別では、若者世代ほど認知度が高く、特に20歳代の男性では51.5%が、女性では41.2%が「知っている」と回答している。内閣府世論調査の20歳代では男性で47.1%、女性で47.6%が回答しておりほぼ同様の傾向となっている。

キ. ワーク・ライフ・バランス

図8-キ

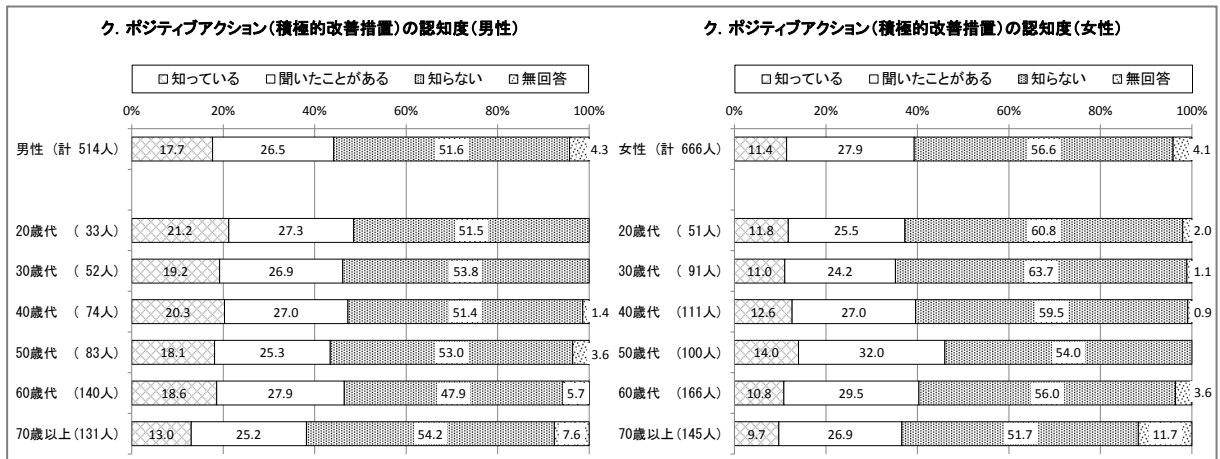


【図8】「ワーク・ライフ・バランス」についての認知度は、「知っている」28.9%（12.6%）と「聞いたことがある」32.7%（30.1%）を合わせると61.6%（42.7%）と過半数を超え、内閣府世論調査の41.3%と比較しても認知度は高い。

【図8-キ】性別、年代別でみると、男性が女性を上回る。男性の20歳代の男性は「知っている」が63.6%と高く、女性は30歳代で40.7%と最も高いが、全体的に年代が高くなるほど低下する。

ク. ポジティブアクション

図8-ク

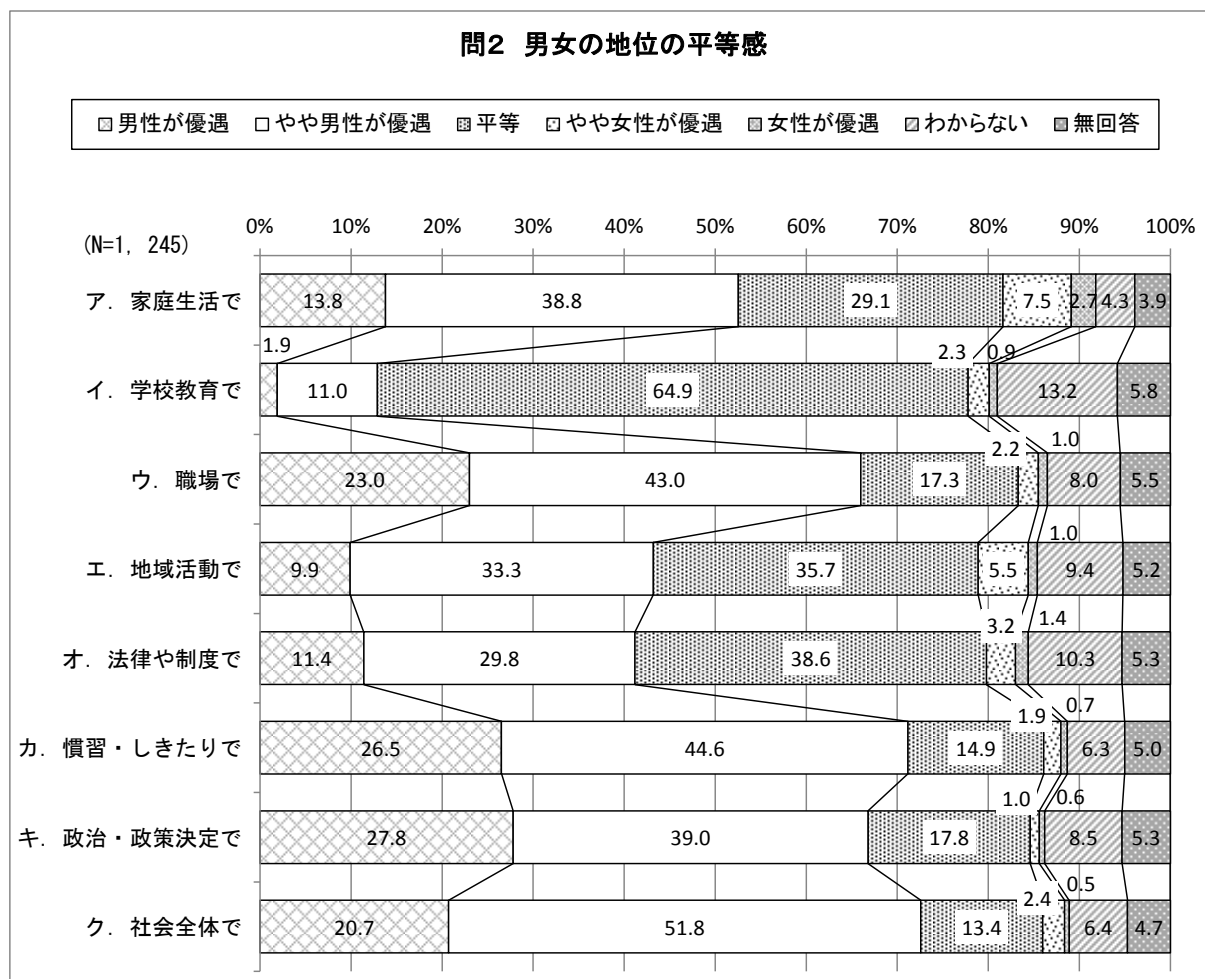


【図8】「ポジティブアクション」については、比較的新しい言葉であるため、8つの項目の中で認知度が最も低い。「知っている」14.0%、「聞いたことがある」27.8%で合わせても40%程度にとどまっている。

【図8-ク】いずれの年代も男性の方が認知度が高い。内閣府世論調査「見たり聞いたりしたことがある」との回答20.0%よりも認知度は高い。

問2 次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。次のア～クの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。(単数回答)

図9 男女の地位の平等感



社会の様々な場面での「男女の地位の平等感」について、男性が優遇されていると感じている項目としては、「職場で」、「慣習・しきたりで」、「政治・政策決定で」、「社会全体で」である。「男性が優遇」、「やや男性が優遇」を含めると60%以上を占める。最も平等感があるのは「学校教育で」となっており、64.9%が「平等」と回答している。次いで「法律や制度で」「地域活動で」「家庭生活で」の順である。「女性が優遇」との回答は、いずれの項目も3.0%以下であり、「やや女性が優遇」を含めても「家庭生活で」の10.2%が最も多い割合となっている。

図9-ア



「家庭生活での男女の地位の平等感」については、「男性が優遇」は13.8%（16.4%）「男性がやや、優遇」は38.8%（40.2%）で「男性が優遇」との回答が半数を超え、前回の調査との比較では、少しずつ平等の方向に改善されている。

性別、年代別でみると、男性では20歳代の54.5%が「平等」であると感じている割合が最も高い。内閣府世論調査では、男性で60歳代を除きいずれの年代も50%以上が「平等」と回答しており、比較するとやや低い傾向にある。女性の場合も内閣府世論調査ではいずれの年代も4割程度が「平等」と回答しているが、本市では、最も多い50歳代でも33.0%であり、全国と比べると割合は低くなっている。

図9-イ



「学校教育での男女の地位の平等感」については、「平等」との回答が 64.9% (54.8%) と過半数を超える。また男性の 20 歳代の回答では、「平等」が 93.9% を占め、「男性が優遇」はわずか 3.0% となっている。内閣府世論調査でも、すべての年代において「平等」の回答が最も多く、年代が高くなると「わからない」と回答する割合が高くなっている。

図9-ウ



「職場での男女の地位の平等感」については、「平等」との回答が17.3%（15.3%）と前回より増加したものの、どの年代をみても男女ともに「男性が優遇」、「やや男性が優遇」の割合が高い。特に女性の50歳代での割合が79.0%を占め男性が優遇されているとの感が強い。男性では、30歳代で「やや女性が優遇」、「女性が優遇」を合わせると他の年代より高くなっている。女性では、すべての年代で「女性が優遇」と回答した人はいない。

図9-工



「地域活動での男女の地位の平等感」については、男性の「平等」との回答は41.6% (44.2%) に対し、女性では31.4% (26.5%) となっており、前回と比較して男女での認識の差が改善している。年代別では、「男性が優遇」「やや男性が優遇」の割合が男女とも年代が上がるにつれ増加傾向にある。

図9-オ



「法律や制度での男女の地位の平等感」については、「平等」であるとの回答は、男性で47.5% (50.3%)、女性では32.0 (25.8%) となっており、男女での認識の差が大きいことがわかる。年代別では、男性の60歳以上では、「平等」であるとの回答がほぼ半数を占めている。

内閣府世論調査でも、男性はいずれの年代も半数近くが「平等」と回答するのに対し、女性は「平等」の回答が30%程度であり、「男性の方が優遇されている」との回答がほぼ50%を占めている。一方で、女性の20歳代は「平等」の回答が47.1%と高く、内閣府世論調査でも「平等」が50.0%であり本市の傾向と一致する。

図9-カ



「慣習やしきたりでの男女の地位の平等感」については、男性では、20歳代と70歳以上を除き、「男性が優遇」、「やや男性が優遇」を合わせて70%程度が、女性は、70歳以上を除き「男性が優遇」、「やや男性が優遇」を合わせて70%以上の回答であり、特に30歳代、40歳代、50歳代で、「男性が優遇」、「やや男性が優遇」との回答が80~90%近くを占めている。

内閣府世論調査でも女性の40歳代、50歳代で「男性の方が優遇されている」が80%を超える高い割合を示し、また女性の方が、「男性の方が優遇されている」との割合が高いことも本市の結果と一致する。

図9-キ



「政治・政策決定での男女の地位の平等感」については、「平等」という回答は、全体では17.8% (19.8%) であるが、男性では、25.5% (31.9%) であるのに対して、女性は、11.6% (11.2%) となっており、男女の平等感の認識の差がある。「男性が優遇」「やや男性が優遇」との回答は、男性では60歳代で合わせて70.0%と高いが、20歳代では「平等」が約4割となっている。女性の場合、同じ割合は50歳代の86.0%をはじめ、40歳代、60歳代でも80%と高く、男性が優遇されていると考えている。

内閣府世論調査では「男性の方が優遇されている」との回答が、男性が69.3%、女性が78.1%と高く、本市の方が下回っている。

図9-ク



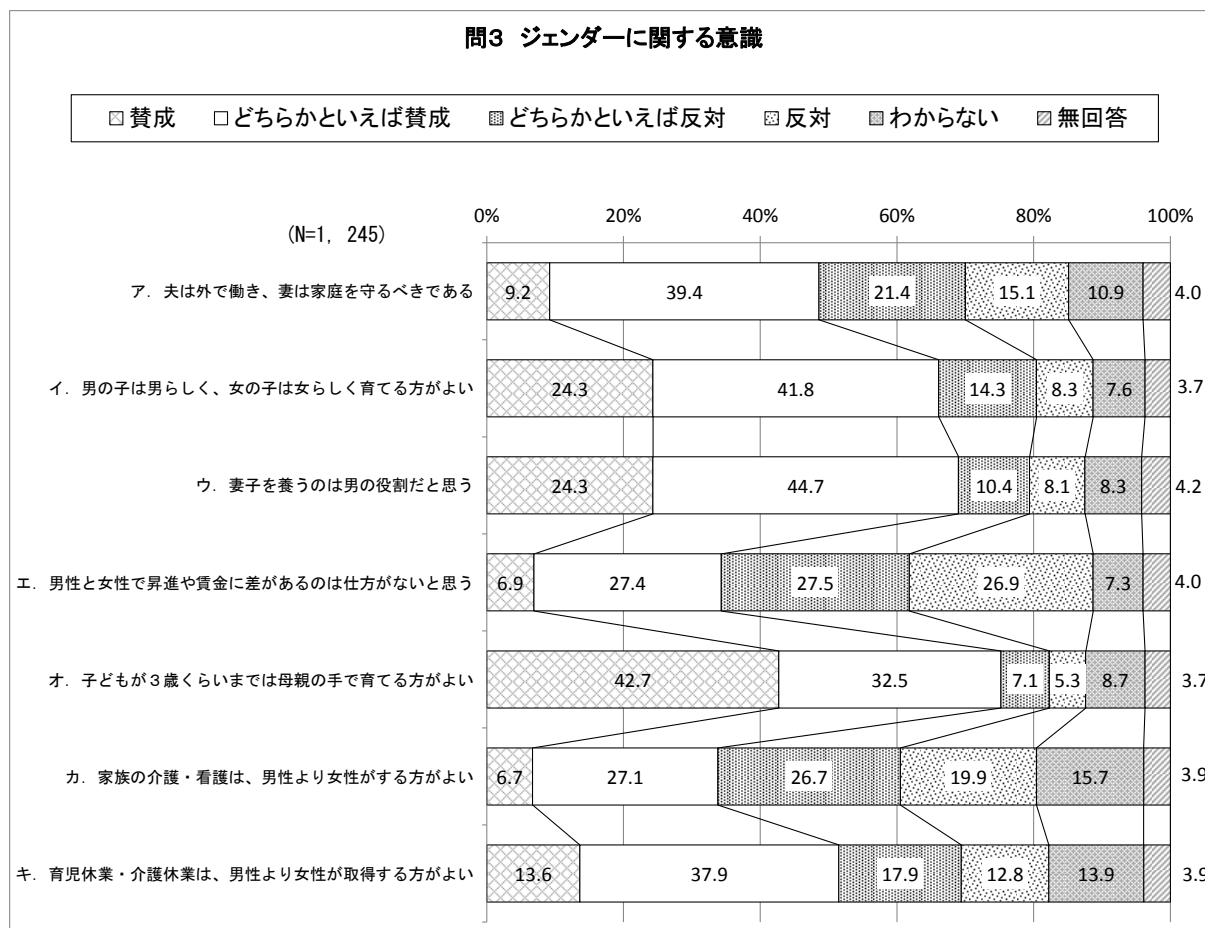
「社会全体での男女の地位の平等感」については、「平等」との回答が 13.4% (14.2%) と低く、男女とも「男性が優遇」、「やや男性が優遇」を合わせた割合が 64.4%、79.6%と高い割合を占めており、男性が優遇されているとの意識が強い。

特に男性では、60歳代で 73.5%と高い割合を占めている。また、女性では、30歳代から50歳代まで80%以上を占めるなど、女性の方がより男性の方が優遇されているとの意識が強いことがわかる。

内閣府世論調査でも「男性の方が優遇されている」との割合は男性で 64.2%、女性で 74.8%となっており、年代別でも女性の40歳代と50歳代で高い割合を占めている。

問3 あなたは、次のア～キのような考え方に対してどのようにお考えですか。あてはまるものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。(単数回答)

図 10



「ジェンダーに関する意識」については、「賛成」、「どちらかといえば賛成」という回答が過半数を占めるのは、「子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい」、「妻子を養うのは男の役割だと思う」、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」、「育児休業・介護休業は、男性より女性が取得する方がよい」という考え方である。一方、「男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がないと思う」、「家族の介護・看護は、男性より女性がする方がよい」については、「反対」、「どちらかというと反対」が「賛成」、「どちらかというと賛成」を上回っている。「夫は外で働き妻は家庭を守る」ことについて「賛成」との回答は48.6%（60.7%）「反対」が36.5%（29.0%）であり、「反対」に増加が見られる。

内閣府世論調査では「賛成」51.6%、「反対」45.1%であり、比較するとジェンダー意識が低く現れている。

図 10-ア



『「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方はについて』は、性別・年代別にみると、女性では、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代で「賛成」、「どちらかといえば賛成」が35.3%、40.7%、36.9%、30.0%となり、「反対」「どちらかといえば反対」が、49.0%、45.1%、49.5%、57%となり反対が上回っている。男性では、20歳代、30歳代、40歳代で「賛成」、「どちらかといえば賛成」が33.3%、34.6%、36.5%となり、「反対」「どちらかといえば反対」が、45.4%、40.4%、43.3%となり反対が上回っている。しかし、女性は60歳代以上、男性は50歳代以上は、賛成が大きな割合を占めるようになっている。

図 10-イ



『「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる方がよい」という考え方について』は、「賛成」「どちらかといえば賛成」が66.1%(77.6%)、「反対」「どちらかといえば反対」が22.6%(15.4%)と「賛成」の割合が高いが「反対」に増加傾向が見られる。

男女とも「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高く、男性では、30歳代以上で3分の2以上を占めている。しかし、50歳代では、男性の「賛成」、「どちらかといえば賛成」が74.7%であるのに、女性では46.0%となっており、男女で大きく考え方が異なる。また、年代が高くなるほど、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなる傾向にある。

図 10-ウ



『「妻子を養うのは男の役割だと思う」という考え方について』は、「賛成」「どちらかといえば賛成」が 69.0% (77.5%)、「反対」「どちらかといえば反対」が 18.5% (14.3%) と「賛成」の割合が高いが「反対」に増加傾向が見られる。

性別、年代別でみると、「賛成」、「どちらかといえば賛成」は男性の方がやや高い。男女とも 40 歳代で「賛成」、「どちらかといえば賛成」が他の年代より低くなっている。

図 10-エ



『「男性と女性で昇進や賃金に差があるのは仕方がないと思う」という考え方について』は、女性では20歳代で「反対」「どちらかといえば反対」が66.7%、30歳代では67.1%、40歳代では70.2%、50歳代で74.0%となっており、20歳代から50歳代で反対の考え方の割合が高い。「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合は、50歳代で20.0%と一番低い割合を示す。しかし、70歳以上で「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が47.6%となり「賛成」の回答が「反対」の回答を上回っている。男性では20歳代の「反対」「どちらかといえば反対」の割合が72.7%と女性の20歳代に比べ高い割合を占めている。50歳以上で「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっている。

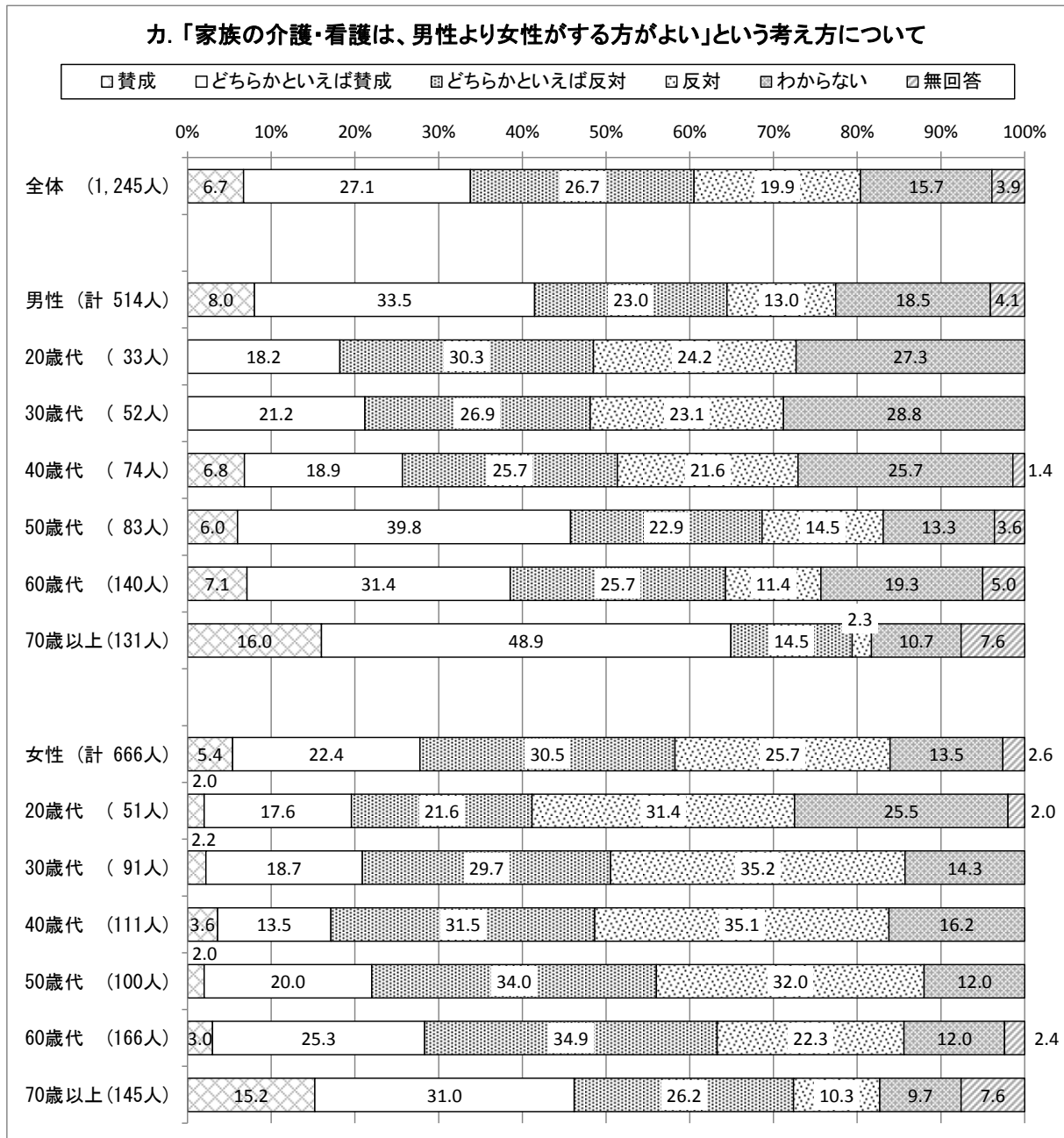
図 10-オ



『「子どもが3歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい」という考え方について』は、「賛成」「どちらかといえば賛成」が75.2%(78.5%)、「反対」「どちらかといえば反対」が12.4%(12.1%)であり、全体的に変化はない。

男性の20歳代で「賛成」、「どちらかといえば賛成」が51.6%と半数ではあるが、他の年代に比べ賛成の考え方が低い割合を示す。30歳代では61.5%となり、年代が高くなるほど「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなり70歳以上では84.0%となる。女性では40歳代で「反対」、「どちらかといえば反対」の割合が26.1%とやや高い。「賛成」、「どちらかといえば賛成」は50歳以上で男性と同様に高くなる傾向にある。

図 10-カ



『「家族の介護・看護は、男性より女性がする方がよい」という考え方について』は、「賛成」「どちらかといえば賛成」が33.8% (37.5%)、「反対」「どちらかといえば反対」が46.6% (43.4%)となる。男性は「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が41.5%を占め、女性では27.8%と男性に比べて低い割合となっている。年代別にみると男性では20歳代と30歳代で「賛成」はなく、「どちらかといえば賛成」も18.2%、21.2%と低く、50歳代以上では「賛成」の回答が「反対」の回答を上回る。女性では「賛成」、「どちらかといえば賛成」20歳代で19.6%、30歳代で20.9%、40歳代で17.1%と低い。70歳以上で、はじめて「賛成」「どちらかといえば賛成」が「反対」「どちらかといえば反対」を上回る。

図 10-キ

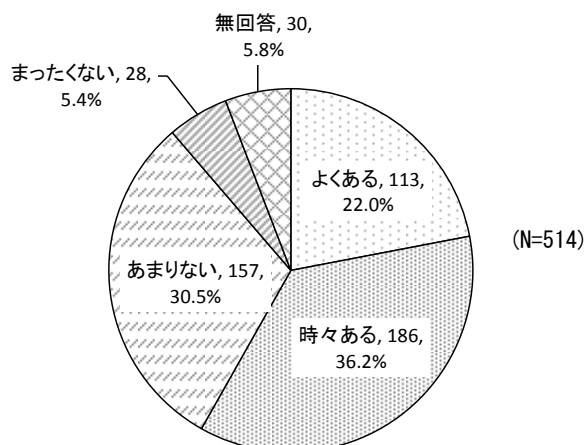


『「育児休業・介護休業は、男性より女性が取得する方がよい」という考え方について』は、「賛成」「どちらかといえば賛成」が51.5% (57.9%)、「反対」「どちらかといえば反対」が30.7% (26.4%)となる。男性では20歳代で「賛成」はなく、「どちらかといえば賛成」が27.3%、30歳代で「賛成」、「どちらかといえば賛成」が34.6%に対し、女性では30歳代で46.2%となっており女性の方の割合が高く、男女の相違がみられる。男性については、「わからない」との割合が高いこともその要因となる。50歳代以上の男性では「賛成」の考え方の割合は高くなり、女性では「賛成」の割合は、40歳代で減少し、50歳代から年代が高くなるほどその割合は高くなり、70歳代以上で7割近くとなる。

問4 男性の方におたずねします。あなたは、男性であるがゆえに大変だと感じたことがありますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。
(単数回答)

図 11

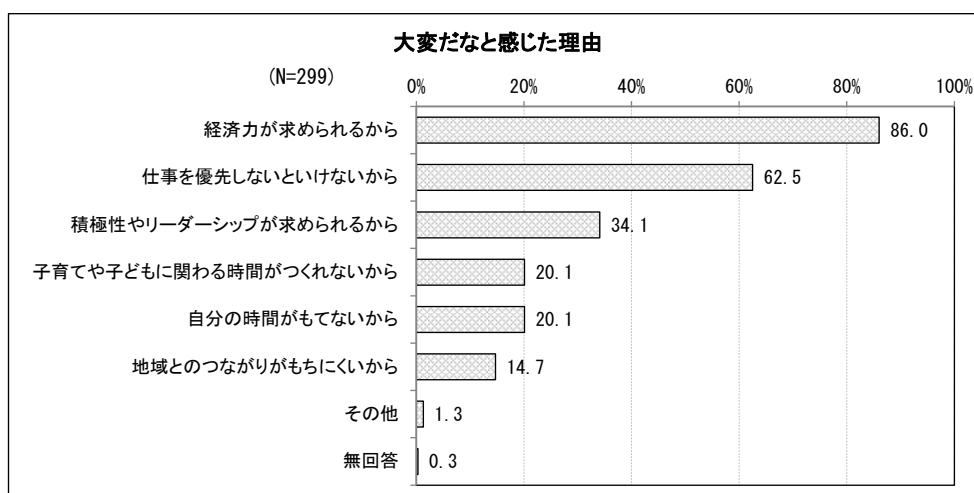
問4 男性であるがゆえに大変だと感じるか



「男性であるがゆえに大変だと感じたことがあるか」については、「よくある」22.0% (22.0%)、「時々ある」36.2% (44.4%)、「あまりない」30.5% (26.7%)、「まったくない」5.4% (3.8%)という結果である。前回と比較して「よくある」は同数で「時々ある」は減少しており、「あまりない」が増えている。

問4-1 問4で「1. よくある」または「2. 時々ある」を選ばれた方におたずねします。そう感じた理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。
(複数回答)

図 11-1



「経済力が求められるから」が86.0% (86.3%)と最も多く、次いで「仕事を優先しなければならないから」62.5% (62.7%)となっており、前回とほぼ同数となっている。「積極性やリーダーシップが求められるから」は34.1% (40.9%)と前回よりも低くなっている。